

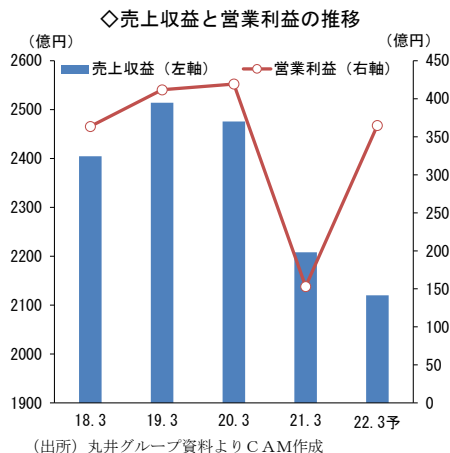
企業ニュース 丸井グループ

(東証1部: 8252) <https://www.0101maruigroup.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

小売×金融による独自のビジネスモデル

首都圏を中心にファッションビルを展開。子会社のエポスカードを通じてクレジットカード事業を行っており、小売と金融が一体となった独自のビジネスモデルを強みとしている。21.3期の売上収益構成比は、小売39%、フィンテック（カード事業など）61%。セグメント利益構成比では、フィンテックが9割を占める。近年は、オンラインでの直販やシェアリングサービスなどを行っている企業をテナントとして誘致し、消費者に商品やサービスを体験してもらう「売らない店」への転換を進めている。21.3期には売場面積の約4割が非物販テナントとなり、26.3期にはそれを約7割に拡大する方針。同業他社にはないテナントの導入で差別化を図り、店舗への集客力を高める。



フィンテック事業がけん引し増収増益

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、売上収益が1,045億円、前年同期比2%増、営業利益が211億円、同2%増。コロナ禍による費用面の特殊要因や債権流動化の影響などを除いた実質的な営業利益は222億円、同7%増となった。小売事業は前年同期からの回復が見られたものの、取扱高がコロナ禍前の20.3期上期比で31%減となるなど厳しい事業環境が続いた。一方フィンテック事業では、取扱高が前年同期比18%増、20.3期上期比でも19%増と好調に推移した。取扱高の回復に伴い、利益率の高いリボ・分割残高が増加に転じた。

22.3期の通期会社計画は、売上収益が2,120億円、前期比3%増、営業利益が365億円、同140%増。前第4四半期に利息返還損失引当金繰入を計上したことなどにより、大幅な増益となる見込み。小売（店舗・ウェブ）の取扱高は、緊急事態宣言が明けた10月が前年同月比5%減、11月が同3%減と緩やかだが回復傾向が確認できた。また、フィンテックの取扱高は10月が同11%増と好調維持。上期のカード新規入会は前年同期比4万人増と力強さに欠ける印象だが、会社は店舗の休業や時短営業の解消、ネット経由の入会を強化することで会員数を積み上げられるとみている。

【株価動向・投資判断】

小売と金融の融合、「売らない店」への転換など、他社にはない戦略の効果に期待したい。

<8252 丸井G 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	経常利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
20.3	247,582 (▲ 2)	41,944 (2)	40,415 (2)	25,396 (0)	117.6	50.00
21.3	220,832 (▲ 11)	15,310 (▲ 63)	14,607 (▲ 64)	2,327 (▲ 91)	10.9	51.00
22.3 予	212,000 (3)	36,500 (140)	34,500 (138)	16,500 (628)	79.6	52.00

(注) 22.3期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用、22.3予の伸び率は当該会計基準等適用後の数値との比較。



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2021/12/3)	2,112 円
年初来高値 (高値日)	2,413 円 (21/11/16)
同 安値 (安値日)	1,702 円 (21/1/6)
予想 P E R (22.3 予)	26.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,368.9 円
P B R	1.54 倍
予想配当利回り	2.46 %
(1株当たり配当金年52.00円)	
R O E (21.3)	0.8 %
発行済み株式数	20,866 万株